

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3370202230		
法人名	医療法人福寿会		
事業所名	グループホームうらら		
所在地	倉敷市茶屋町1245-3		
自己評価作成日	令和5年7月26日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利法人 津高生活支援センター		
所在地	岡山市北区松尾209-1		
訪問調査日	令和 5年 8月 10日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>家庭的な居場所として、入居者の方に生活リハビリを兼ねて、洗濯、掃除などを協力していただいている。家族との交流を持っていただくため、病院受診など積極的にお願いをしている。</p>
---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>掃除と整理整頓の行き届いた中、機能維持を目指した支援方針で家庭的な暮らしを大切にされた取り組みが窺えます。中でも、食事支度場面での入居者の関わりが多く見受けられます。感染症流行による交流や活動制限のある中、さまざまな工夫をしながら、入居者の出来る事に目を向けた生活の様子が家族にも伝わり、安心に繋がっている事が感じ取れます。又、災害対策では、洪水を想定した訓練を繰り返し実施する中で、避難手順の再確認や職員への周知が図れています。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ケアに困った際には、理念に立ち返ってケア方針を立てている。	玄関付近の廊下に理念を掲示し、職員への意識付けを図っています。管理者は理念に立ち返りながらケア方針を立てる事を心掛けています。	職員間で理念について話し合う機会をもち、共有と実践に繋がる意識付けがなされる事を期待します。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	令和2年から感染対策のため入りは中止としている。	以前は併設施設を地域に開放し、100歳体操教室の開催など、地域住民と入居者が交流する場がありました。現在は感染症対策の為に休止していますが、終息に向かえば再開を予定しています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	現在は関わりをできていないが、地域の清掃活動、廃品回収に参加する予定。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議はできていないが、書面でのやり取りで近況報告を行い、アドバイスをいただいている。	感染症対策の為、書面開催としています。地区の民生児童委員には、書類送付後に電話をかけて意見を求めたり、地域の実情を尋ねる等、顔を合わせる事ができない中、工夫しながら再開出来る日まで意見交換に努めています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	コロナ感染対策にて運営推進会議の開催は実施できていないが、資料の配布は行い施設の運営状況を報告している。	事業運営上の確認事項があれば、その都度、市町村担当者に確認しています。また、生活保護受給者は、担当ケースワーカーと生活状況の情報共有を行う等、日常的に協力機関と連携しています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中、玄関の施錠は行っていない。多動的で徘徊傾向強い方には付き添い見守りを基本としている。	本人の気持ちに寄り添い関わっていくことで、身体拘束しないケアに取り組んでいます。また、職員の言動に不適切な点はないか、日々のやり取りを振り返り、問題意識を持って取り組んでいます。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	2か月に1回虐待防止委員会を開催したり、定期的に社内研修を行い、防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員には、成年後見制度の研修は行っている。管理者は、ご家族等と話し、活用できるよう支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	口頭だけではなく、書面にて説明を行い、同意を得ている。また、できる限り専門用語は、分かりやすい言葉で言い換えて説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日々の入居者様のかかわりの中で要望等を聞き出すようにしている。また、ご家族の面会時にも要望を聞き取ることから反映させている。	面会時、電話、又、写真入りの事業所便りにコメントを添える等、生活の様子を伝えるコミュニケーションも図られており、入居者、家族の意見や要望を出来るだけ反映する様、取り組んでいます。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的に管理者、統括と面談を行い、職員が意見を言える環境作りをしている。	常勤職員は年2回(非常勤職員は年1回)、代表者が働き方の希望や運営上の意見要望を直接聞く機会を設けています。又、管理者は日常業務の中で職員の意見要望を聞くように心掛けています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	基本給の引き上げや残業手当の支給。年次有給休暇の取得を推進している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修に参加はできていないが、ホーム内にて認知症研修を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	2か月に1回、法人内のGH会議を開き各々のGHの活動を報告し、情報共有を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の訴えを否定せず傾聴を行うことで、関係の構築を図っている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービスの種類について分かりやすく説明を行い、サービスを受けることに不安を感じさせないように努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	現時点でグループホームに入居という選択肢以外にも小規模多機能施設等の活用の説明も行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の中で会話しながら料理をしたり、洗濯干し、たたみ等家事を一緒に行うことで暮らしの中の介護職員になっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時だけでなく、電話にても日々の様子を家族に伝え、また家族の方(親族・身内に)でも変わりごとがないか確認することもある。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	他家族と面会が重ならないよう制限はあるが、予約制にて近所の友人や親せきと面会ができる。	面会時間等に制約はあるものの、感染症対策を講じながら、徐々に関係継続に向けた取り組みを再開しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の相性や関係性に留意しながらテーブル配置・席配置を考え、穏やかに生活できるよう支援している。利用者との間を取り持つのも職員の仕事と認識できている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居された方へ定期的に連絡を取り、状態把握をしており、再入居を希望される方には、相談や支援に努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員の一方的な思い込み支援にならぬよう、利用者の普段の様子や言動も把握し、職員間で確認した上で検討しケアを行っている。	入居者の様子や言動から意向を汲み取る他、生活歴の職業や趣味等も参考にして、本人の気持ちを推察して関わっています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	フェイスシートに細かく記載し、新たに分かったことがあれば、追記している		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	アセスメントシートに細かく記載。変化があれば都度変更している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族の訪問・面会の際に、本人の日々の様子を伝え、本人と家族の希望・要望・意見を伺い、施設でのケアについて説明をして計画を作成	カンファレンスに家族が同席できない場合、事前に意見・要望を確認し、計画に反映しています。又、職員会議で出た意見を取り入れる場合は、当該職員に原案を確認してもら等、それぞれの意見やアイデアを反映させる取り組みが見受けられます。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画書に基づいた介護記録をするように努力し、次のプランに反映できるようにしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	急病にて外部病院受診後、入院となったり救急搬送が必要な時には、急ぎホーム職員で対応し、家族が到着するまで付き添っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ感染対策にて、地域資源の活用が出来ていない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回の訪問診療が受けられ、体調不良時には随時電話相談ができ、臨時住診も可能。	協力医療機関の藤戸クリニックがかかりつけ医となり、訪問診療を実施しています。その他、訪問歯科や訪問看護等、必要な医療を受けられる体制が整備されています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	24時間随時利用者の体調面の相談が可能。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	契約クリニックが、地域医療連携室を活用しているため、円滑な入退院支援ができています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	必要があれば、主治医と相談の上管理者もしくは、主治医と家族面談を行っている。	入居時に終末期に関する意向確認を行っています。状態悪化が予測される時は、再度意向確認を行う家族との面談を実施しています。終末期支援の際は、管理者や関係機関にすぐ連絡が取れる体制を整備する事で、職員の不安軽減を図っています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員の中に知識や実践力のばらつきが見られるので、勉強会を開き、経験豊かな職員にレクチャーしてもらっている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の防災訓練や避難訓練に合わせ、図上訓練も行っている。洪水警報時、避難勧告時にどこに逃げるかを職員へ周知している。	洪水を想定した避難訓練では、避難場所となる同法人事業所まで車両を用いた避難誘導を毎年実施しています。振り返りでは、入居者の負担に配慮した搬送手順について話し合った記録もあり、災害発生に対して意識の高い訓練が実施されている様子が窺えます。	今後も様々な災害発生を想定した訓練に、地域住民の参加や協力も検討しながら、より安全で確実な避難誘導が行える取り組みに期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	定期的に研修を行っている。今後も不適切にならぬよう注意していく	職員の言動や言葉かけが不適切になっていないか、職員会議での話し合いや、チェックリストを用いた振り返りを行っています。又、トイレ等の声かけは、周囲に聞こえないように耳元で伝える事を徹底しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者によって職員が声かけの仕方を変え、本人から自己決定できるように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員から何かを強制することはない。一人一人に確認を取りながら日中を過ごしていただいている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴準備や着替えの際には、ダンス内から2～3点の服を出し、どれにするか自己決定を促している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と職員と一緒にキッチンに立ち、会話を楽しみながら準備・片付けをしたり、リエストの食事を提供している。	管理栄養士の献立をもとに、職員の手料理を提供しています。日常にお米研ぎや盛り付け、味見等を入居者も行っており、食事に関する一連の作業の中に、入居者の力が発揮できる様、支援しています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量・食事量の記録を行い、利用者1人1人に合わせて量や食事形態を変えている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔状態に変化があれば、協力歯科に相談・往診依頼し、指示の下、適切なケアに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	毎月のミーティングにて、1人1人のケアを見直し、必要があればモニタリングを行い、評価している。	個々の排泄パターンを掴み、可能な限りトイレで排泄できるケアを実践しています。入居前はリハビリパンツを着用していたが、ケアを見直す事で、入居後布パンツを着用し、排泄の失敗なく過ごせている入居者も2名いました。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取量が適切か、食事が減っていないか確認しながら、必要に応じて医師の指示・処方を受けてケアしている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	大まかには曜日や時間決めを行っているが、個別に要望や必要時には、可能な範囲で対応。	入浴拒否が強い入居者に対して、その原因を推察し、入浴日を限定しない声かけ、羞恥心に配慮して浴室扉に暖簾を取り付ける環境配慮、入浴剤の使用等含めた個別支援が窺えます。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日々の体調変化や気分の変化に合わせて行っている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	常に職員2人で配薬のダブルチェックを行い、変化があれば記録し、主治医・訪問看護師へ報告を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個別の好みを把握し、職員は好みに合った支援をしようと努力している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の希望を把握し、職員や家族に依頼し外出支援を行っている。	感染症流行により、戸外への積極的な外出は行えていませんが、事業所周辺の散歩や、庭先で育てている野菜の水やり等、日常的に季節感や張りのある生活を心掛けた支援を行っています。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	紛失等のトラブルを避けるため所持していない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ホームの電話を利用して家族と連絡が取れるよう、支援している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関先には季節の花を飾り、畑には季節の野菜を植えている。	共有フロア内には季節の草花が飾られている他、目につきやすい位置に大きな日めくりカレンダーを貼っている等、五感への働きかけと、見当識への配慮が感じられます。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	たたみコーナーを活用し、ホールわきに設置してあるたたみで休んだり、気の合う利用者同士でテーブルが囲めるよう、柔軟に対応している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具を持参して過ごされている方もおられる。	使い慣れた品物の持ち込みを推奨しており、入居者が長年使用してきた椅子や収納家具を持ち込まれています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	書籍は取りやすい位置に設置。共同トイレは目の高さに合わせ表示しており、トイレが分かるようにしている。		